

第2回 港湾における i-Construction・インフラ DX 推進委員会 議 事 概 要

日 時：令和7年2月21日（金） 10：00～12：00

場 所：（一財）港湾空港総合技術センター 2階会議室 および Web 会議

1. 主な議事

- 事務局より、本年度の委員会での取り組み内容等について説明をした後、委員による意見交換を行った。

2. 主な意見

- マルチビームクラウド処理システム（MBC）については、地方自治体等の工事や受注者の施工管理にも活用できればいいと思われる。また、災害時での活用を含めて通信環境が重要となるので、全国的な通信環境整備などの検討が必要。
- 地震によって基準点が移動するとその対応には手間がかかるので、災害発生時に MBC 活用するためには、基準点の移動に関する対応方針や手順などを整理し、マニュアルに記載すべき。
- MBC については、将来的な海図補正への適用を目指して、来年度からの試行工事でデータ取得し精度の検証を進めてほしい。
- MBC や衛星 3 次元測位等の新しい技術については、実際の工事や業務への展開が重要であるので、最終的にどのように使うのかという観点で、機材装備等の費用面も含めて、活用促進を考えていくことが必要。
- 中小企業向け ICT 活用施工管理モデル工事での出来形計測については、受注者の負担にならないように、なるべく簡潔になるように取り組んでほしい。
- BIM/CIM に係る取組については、中小企業がついていけない可能性があるので、システム開発や導入等については、十分に配慮して進めてほしい。
- オンデマンドでの研修資料等の配信は効果的なので、今後もコンテンツの充実を図ってほしい。
- 取組方針の中期・長期の取組目標として記載されている「計画的な休暇の確保」や「働き方改革」は喫緊の課題であり、短期の取組目標として記載すべき。

- 取組方針の技術の進展に「水中の３次元位置の把握」を追加し、短期の施策展開に記載されている「潜水作業の可視化」については、潜水作業の安全性・生産性の向上の項目として「潜水作業の可視化」を入れ、中長期にも生産性・安全性の向上の項目を残してほしい。
- ロードマップの海外展開については、ヨーロッパなど他国主導で国際標準化が進むと日本の産業への影響が大きいので、対応方針を定めて今後３年間の取組に記載してほしい。
- ロードマップのプレキャストについては、最近の資材の高騰、機材の調達難をふまえると効果的であると思われるので、試行業務や工事に積極的に取組むべき。また、プレキャストは狭義のプレキャストコンクリートだけではなく、ブロックやジャケットなど幅広く捉えるべき。

以 上